

# 安全・安心のまちづくりへ

## 吉川市議会レポート 令和元年9月定例会



『ふりはたさとし』

「市民の会・無所属」  
(代表)

生年月日 昭和44年12月23日  
趣味 ソフトボール・バレー  
ボール 太鼓 写真 読書  
担当 総務水道常任委員会  
住所 保799-2  
携帯 090-9849-5523  
e-mail satoshi-furihata  
@hotmail.co.jp

新しい風

発行元 「ふりはたさとし」後援会  
発行責任者 浅水新一  
No. 035  
事務所 吉川市  
住所 保799-2  
電話・FAX 048-981-1425

### 平成30年度決算を認定 生活道路の安全対策な質疑

令和元年9月定例会は、9月2日に開会し23日間の会期で開かれました。市長提出議案は、平成30年度一般会計歳入歳出決算および、国民健康保険や介護保険などの特別会計歳入歳出の決算関係が8件。「災害弔慰金の支給に関する条例の一部を改正する条例」など条例関係が5件。補正予算4件など計19件。審議の結果、平成30年度決算を認定するとともに、全議案が可決成立しました。市制に対する一般質問には、18人が登壇。「ふりはたさとし」は安心・安全のまちづくりの視点から「生活道路の安全対策」と、健康維持・促進の視点から「スポーツに親しめる環境づくり」として「中曽根グラウンドへの駐車場設置」について市の考えを質しました。(裏面掲載)

【歳入】 51億円減の  
227億3370万円

平成30年度の一般会計歳入決算額は、227億3370万円で、前年度に比べて50億9953万円減少しました。

市税が6144万円増加したほか、吉川中学校建設事業の推進などにより、国庫支出金が2億1871万円増加しました。

一方、新庁舎建設事業や中学校用地取得事業の減に伴い、繰入金が10億4283万円、市債は44億8120万円減少しました。

歳入で最も多く占めたのは市税で96億3010万円、次に国庫支出金39億9688万円、3番目が市債の20億8755万円でした。

この結果、自主財源が53%、依存財源が47%となりました。

【歳出】 庁舎・中学校の  
大型事業が進捗

歳出決算額は、前年度と比べて52億5710万円減

の219億8422万円となりました。

目的別で最も多く縮めたのは民生費の94億2682万円。次に教育費で29億8769万円、3番目に総務費の22億9720万円でした。

前年度と比較すると、新庁舎建設事業や吉川中学校用地取得事業の減に伴い、総務費が30億6752万円、教育費が21億9057万円減少しました。

### 吉川市議会議員選挙は来年 1月19日告示・26日投開票

2020年2月4日に任期満了に伴う吉川市議会議員選挙が、2020年1月19日告示、同26日投開票で行われることが決まりました。  
— 吉川市選挙管理委員会 —

# 一般 市民の声を市政に反映!!

「ふりはたさとし」は、安心・安全のまちづくりの視点から「生活道路の安全対策」と、健康維持・促進の視点から「スポーツに親しめる環境づくり」として「中曽根グラウンドへの駐車場設置」について市の考えを質しました。

## 交通弱者の視点に立って 生活道路の整備促進を

降旗議員のもとには、生活道路の整備については、多くの方から日々、要望が届けられています。また、今年度の吉川市の

予算編成における要望書で「生活道路に関わる後退道路の整備に努めること」を求めました。そこで、保内地や栄町地

内、加藤地内の4つの生活道路の補修と、後退を含む道路整備について市の考えを質しました。これに、都市整備部長が、市道2-437号線（なまの里公園・あずみ苑南側）については、沿線地権者の採納の状況を踏まえて検討。加藤地内の市道3-430号線は、水道管工事後の舗装の本復旧が完了していないため、水道課と協議・調整を行い対応したい。

市道2-444号線（保2区北自治会地内）・2-105号線（ウニクス東側）の後退を含む道路整備については、整備に必要な個所の採納が完了次第、整備を検討したいと考えていると

## 実態踏まえ引き続き検討 中曽根公園への駐車場設置で

市内には日々スポーツに励まれている方が多くいます。降旗議員のもとに、中曽根グラウンドでスポーツを楽しんでいる方々から、「どうにか駐車場の整備を」と望む声が届けられました。そこで、中曽根公園への駐車場設置にむけた現状と課題、今後の方向性について、市の考えを質しました。これに、都市整備部長は、現在、多目的グラウンドの利用が多い土・日・休日に限り、公園北側の市道の駐車禁止の規制が解除されている。



吉川調節池は大雨の時、一時的に11万m<sup>3</sup>を貯留します(県HPより)

吉川駅北口地域の治水対策として、木売落しの改修が計画されています。今議会でも、この治水対策の課題と見通しが明かとなりました。H24年度に概算事業費を試算。しかし、毎年のように長時間連続した豪雨が発生していることから、H29～30年度にかけて実施した「木売落し構造断面検討委託業務」で、ポンプ施設の増強や自家発電施設を追加。その結果、概算で初期投資が58億円、維持管理や施設点検などランニングコストが50年

間で4・8億円、被害軽減額が50年間で41・5億円、貯留量が3・8万m<sup>3</sup>となりました。これにより、国庫補助導入基準の費用対便益の比率が下回ったため、現在のポンプ施設の規模縮小や自家発電施設の見送りなどで事業費抑制を検討中です。降旗議員は、木売落しでの貯留にこだわらず、吉川駅北口地域と南中学校周辺地域（栄・保・中野地区）の治水対策として排水区を見直し、底面利用で多目的グラウンドとしても利用できる、調節池設置を求めています。

「早期に治水対策を」

H28年度に、駐車スペース設置について、様々な検討を行った際、公園利用者団体や地元自治会、学校や警察などから意見を伺ったところ、利便性向上を望む一方、学校の教育環境や地域住民の生活環境への影響を心配する意見があったので、引き続き実態を踏まえ検討すると応えました。